

「いわて外国人向け観光コンテンツ発掘プロジェクト」における これまでの検討状況と成果について

平成30年3月19日
復興庁岩手復興局
次長 遠藤 和重

平成29年度交流拡大版ハンズオン支援事業について

○岩手、宮城、福島各復興局主導で、民間事業者と共同して意欲的な地域の支援・関係者の連携促進を行い、民間事業者のノウハウを活用した新たなコンテンツの発掘等の地域の魅力の底上げを図る「ハンズオン支援事業」を実施。

○旅行会社等の民間事業者と地域とのネットワークを構築することで、取組の継続や自立的な取組の拡大につなげる。

岩手復興局における実施内容：いわて外国人向け観光コンテンツ発掘プロジェクト

事業名称：岩手県を中心とした北東北インバウンド誘客推進調査・検討等業務

受託事業者：(株)JTB東北 法人営業盛岡支店

【概要】

外国人旅行者の誘客による交流人口拡大・観光振興に向けて、

1. 岩手県を中心とした北東北への来訪のきっかけ、滞在の満足度を向上させるコンテンツの拡充と磨き上げ
2. 「オール岩手」で外国人旅行者を受け入れる機運醸成・意識啓発(126.8万人県民コンシェルジュ計画)
3. 外国人旅行者の誘客や地域内周遊促進に向けた情報発信の土台構築

を行うことで地域の自立的な取り組み拡大に寄与する事業を目指す。

1 「観光コンテンツプロデュース会議」 (4回実施)

岩手県内への外国人旅行者誘客と受入促進のための課題を把握し、目指すべき方向性を検討する場として運営。最終回は沿岸13市町村で構成する「岩手三陸連携会議」と合同で、「いわて三陸観光復興推進フォーラム」として開催。

会議のテーマ	第1回：事業の方向性、調査エリアの選定等 第2回：調査エリアにおける検討状況と商品開発の検討方針等 第3回：これまでの検討結果を踏まえた各調査エリアの魅力を活かしたインバウンド向け商品の構築等 第4回：いわて三陸観光復興推進フォーラム
参加者	①有識者委員(2名) ②実践委員(3名) ③その他観光・復興関係者 等

2 各調査エリアにおける「エリア検討会」 (5回実施)

各調査エリアにおける誘客のフックとなる新たなコンテンツを開発するための「エリア検討会」を沿岸12市町村でのべ12回開催。コンテンツの拡充とともに、外国人に選ばれ売れる商品について岩手県内で15商品程度の開発を目指す。

エリア	(1)県北 (2)県央 (3)県南
会議のテーマ	第1回：調査エリアの現状把握と課題の共有 第2回：調査エリアで強みにしたいコンテンツの魅せ方の検討 第3回：調査エリアの魅力を生かしたインバウンド向け商品の構築 第4回：エリア検討会(計4回開催)のまとめとオペレーション方法 第5回：いわて三陸観光復興推進フォーラムにて各調査エリアによる成果発表
参加者	①実践委員 1名×3地域 ②地域事業者等 10～20名程度×3地域

3 北東北観光コンテンツ一覧作成

岩手県民が推奨する「売りたいもの」と外国人旅行者の嗜好にマッチした「売れるもの」、また、旅行会社等の造成・販売側や外国人旅行者自身が求める「現地情報」を収集し、北東北の観光コンテンツ一覧を作成。今後、旅行商品の販売や外国人旅行者対応のツールとして活用予定。



「観光コンテンツプロデュース会議」の概要について

- 近年全国的に急増している外国人旅行者について、岩手県を中心とした北東北への誘客と受入促進、滞在時の満足度の向上を図るとともに、新たな観光コンテンツの開発や既存の観光コンテンツの磨き上げ、外国人向け旅行商品の造成等を行うにあたり、その課題を把握し、目指すべき方向性を検討する場として平成29年9月に「観光コンテンツプロデュース会議」を設置。平成30年1月までに盛岡市内で3回開催。
- 本会議での内容を踏まえ、後述の「エリア検討会」を平成30年2月までに沿岸12市町村でのべ12回開催。
- 本会議の4回目及びエリア検討会の5回目は「いわて三陸観光復興推進フォーラム」として3月19日に宮古市内で開催。

開催日時及び場所

- 第1回：平成29年 9月15日(金) 13:00～15:00 復興庁岩手復興局 4階会議室（岩手県盛岡市中央通1-7-25）
- 第2回：平成29年11月13日(月) 13:00～15:00 復興庁岩手復興局 4階会議室（岩手県盛岡市中央通1-7-25）
- 第3回：平成30年 1月26日(金) 13:00～15:00 復興庁岩手復興局 4階会議室（岩手県盛岡市中央通1-7-25）

出席者名簿（各回共通）

①有識者委員（2名）

岩手大学理工学部 教授 南 正昭 氏(会議座長)
岩手大学人文社会科学部 教授 五味 壮平 氏

②実践委員（3名）

株式会社ナレッジハウス 代表取締役 菅原 達也 氏(県北エリア検討会座長)
株式会社ライト・ア・ライト 顧問・プロデューサー 栗石 吉隆 氏(県央エリア検討会座長)
株式会社JTBグローバルマーケティング&トラベル
営業企画部地域誘客戦略推進室 地域交流推進部長 阿部 昌孝 氏(県南エリア検討会座長)

③その他観光・復興関係者 等

復興庁岩手復興局
岩手県政策地域部地域振興室
公益財団法人さんりく基金(三陸DMO)
公益財団法人岩手県観光協会 ※第1回のみ
一般社団法人日本旅行業協会 東北支部 岩手地区委員会 ※第3回のみ

「観光コンテンツプロデュース会議」の実施内容について

第1回会議 実施内容

○開催目的

岩手県を中心とした北東北へのインバウンド旅行者誘致と受け入れを推進するため、現状やその課題を把握し、目指すべき方向性を共有し、その取組を検証する。

○議題

- ・本事業の方向性と北東北及び岩手県の課題について
- ・調査エリアと実践委員の承認について
- ・対象市場とニーズの確認について
- ・その他

○内容

- ・事業を実施するにあたり、最近の東北の観光復興に関する取組や岩手県をとりまく観光の現状、観光の機会等について事務局から説明し、方向性を共有。
- ・エリア検討会の調査エリアや実践委員について事務局から提案され、承認された。
- ・対象市場とニーズ等について議論し、観光メニューづくりへの意見が出された。

○会議の様子



第2回会議 実施内容

○開催目的

「観光コンテンツの整理」「受入環境」「磨き上げ」「パッケージ化」等について、10月上旬から11月上旬にかけて各調査エリアで2回ずつ計6回実施したエリア検討会の検討結果を踏まえ、インバウンド向け商品開発の検討方針について議論する。

○議題

- ・各調査エリア(県北・県央・県南)のこれまでの検討状況について
- ・インバウンド向け商品開発の検討方針について
- ・フィールドワーク会議について
- ・その他

○内容

- ・エリア検討会での検討状況と、インバウンド向け商品開発の検討方針について、事務局から説明。
- ・エリア検討会で出された各調査エリアの観光資源について議論し、インバウンド向け旅行商品開発の方針を決定。

○会議の様子



第3回会議 実施内容

○開催目的

「関係者間で商品イメージを共有した上での商品化へ向けた必要条件の確認や課題の洗い出し」「広域的な連携」等について、10月上旬から12月下旬にかけて各調査エリアで3回ずつ計9回実施したエリア検討会の検討結果を踏まえ、各調査エリアの魅力を活かしたインバウンド向け商品の構築等について議論する。

○議題

- ・各調査エリア(県北・県央・県南)のこれまでの検討状況について
- ・岩手の観光案内ツール(仮称)について
- ・成果発表会(仮称)について(3月19日開催)
- ・その他

○内容

- ・エリア検討会での検討状況と、今後作成する岩手の観光案内ツール(仮称)について、事務局から説明。後者に関して、作成する際の注意点や方向性等についての議論を行った。
- ・本事業と岩手三陸連携会議との連携が決まったことを踏まえ、成果発表会の実施を決定。

○会議の様子



※第1回～3回会議における配布資料については復興庁公式サイト

東北の観光復興の取組について(「復興庁」「観光」で検索可能)

<http://www.reconstruction.go.jp/topics/main-cat1/sub-cat1-19/20160119130009.html#kouban4>

にて公表済み

「観光コンテンツプロデュースエリア検討会」の概要について

○先述の会議と並行し、各調査エリアにおける誘客のフックとなる新たなコンテンツを開発するための「エリア検討会」を沿岸12市町村でのべ12回、下記及び次ページの内容で開催。

調査エリアと実践委員

- 復興道路、復興支援道路等の整備状況を踏まえ、旅行者のルートとなる交通インフラ(特に新幹線駅・主要道路)を規準に岩手県を3エリアで調査。**調査3エリア全てに沿岸市町村を組み込み、内陸と沿岸の相互交流ができるよう配慮**し、第1回会議で承認。
- 外国人旅行者誘客のための商品・仕組み・地域づくりができる実践者であり、他地域の事例を提示しながら支援できる者を実践委員として選出し、第1回会議で承認。
- 各調査エリアと担当する実践委員については以下のとおり。

調査エリア	エリア対象自治体名	実践委員(各エリア検討会座長)
岩手県北エリア	久慈市 、二戸市、八幡平市、葛巻町、 普代村 、軽米町、 野田村 、九戸村、 洋野町 、一戸町、	株式会社ナレッジハウス 代表取締役 菅原 達也 氏
岩手県央エリア	盛岡市、 宮古市 、滝沢市、雫石町、岩手町、紫波町、矢巾町、 山田町 、 岩泉町 、 田野畑村	株式会社ライト・ア・ライト 顧問 雫石 吉隆 氏
岩手県南エリア	大船渡市 、花巻市、北上市、遠野市、一関市、 陸前高田市 、 釜石市 、奥州市、西和賀町、金ヶ崎町、平泉町、住田町、 大槌町	株式会社JTBグローバルマーケティング&トラベル 営業企画部地域誘客戦略推進室 地域交流推進部長 阿部 昌孝 氏

開催日時及び場所

- 第1回:平成29年10月 3日(火) 13:00 ~ 16:00 県北エリア(久慈市役所 3階大会議室)
 平成29年10月 4日(水) 13:00 ~ 16:00 県央エリア(山田町中央コミュニティセンター)
 平成29年10月 3日(火) 13:00 ~ 16:00 県南エリア(大船渡市役所 地階会議室)
- 第2回:平成29年11月 9日(木) 13:00 ~ 16:00 県北エリア(普代村役場 3階大会議室) ※台風のため、10月23日から11月9日に延期
 平成29年11月 2日(木) 13:00 ~ 16:00 県央エリア(道の駅・みなとオアシスみやこ シートピアなあと2階研修室)
 平成29年10月24日(火) 13:00 ~ 16:00 県南エリア(大槌町中央公民館 3階大会議室)
- 第3回:平成29年12月19日(火) 13:00 ~ 16:00 県北エリア(野田村生涯学習センター 多目的ホール)
 平成29年12月15日(金) 13:00 ~ 16:00 県央エリア(田野畑村役場 1階第1会議室)
 平成29年12月21日(木) 13:00 ~ 16:00 県南エリア(陸前高田グローバルキャンパス 3階ワークショップルーム)
- 第4回:平成30年 2月16日(金) 13:00 ~ 16:00 県北エリア(洋野町民文化会館 コミュニティーホール)
 平成30年 2月21日(水) 13:00 ~ 16:00 県央エリア(岩泉町役場 分庁舎第一会議室)
 平成30年 2月 7日(水) 13:00 ~ 16:00 県南エリア(釜石情報交流センター チームスマイル・釜石PIT)

「観光コンテンツプロデュースエリア検討会」の実施内容について

各エリア共通 実施内容

○第1回：「調査エリアの現状把握と課題の共有」

- ①本事業の方向性と北東北及び岩手県の課題について
- ②エリア検討会で目指すインバウンド向けの商品化について
- ③インバウンド旅行者を受入れるための考え方について
- ④地域の課題の共有

○第2回：「調査エリアで強みにしたいコンテンツの魅せ方の検討」

- ①コンテンツを集約した結果の提供
- ②既存のコンテンツの状況の整理
 - ・地域の受入環境(ハード・ソフト面)
 - ・受入団体の状況
 - ・実施している販売方法、情報発信方法

○第3回：「調査エリアの魅力を活かしたインバウンド向け商品の構築」

- ①体験資源・素材提案シート集約結果の提供と商品イメージの共有
- ②商品化へ向けての必要条件の確認と課題の洗い出し
- ③地域内の連携先・組手の検討

○第4回：「エリア検討会(計4回開催)のまとめとオペレーション方法」

- ①インバウンド向け商品のオペレーション方法
- ②体験資源・素材提案シート集約結果の提供と完成に向けて
- ③成果発表会(仮称)について

県北エリア検討会 実施内容

○第1回

- ・SWOT分析の手法やインバウンド旅行者を受入の考え方等について、座長から説明
- ・WSで観光資源の洗い出しを行い、それらの地域資源の認知度、魅力度、愛着度、自慢度について5段階評価を実施

○第2回

- ・観光振興、地域づくりの一体化に関して、観光推進組織であるDMOについて、他県の事例を交えながら座長から説明
- ・「地元の人との交流」をキーワードに、WSで実際に体験型プログラムを考案

○第3回

- ・日本版DMOの考え方やその概要、商品を造成するにあたってのリスクマネジメントについて座長から説明
- ・「体験資源素材提案シート」について基本情報を分類し、WSでその評価を実施

○第4回

- ・観光まちづくり推進PJについて、座長から説明
- ・「体験資源・素材提案シート」の集約結果の提供と完成に向け、インバウンド向けの商品オペレーションについても踏まえながらWSで最終の検討を実施

県央エリア検討会 実施内容

○第1回

- ・他県での事例を紹介し、身の回りの観光資源をどう磨き、どう発信していくか、「インスタ映え」も意識した手法について、座長から説明
- ・WSで観光資源の洗い出しを行い、自分では気づかない地域資源の新たな「気づき」を導き出す

○第2回

- ・外国人旅行者の行動や思考を意識した「インスタ映え」について、映像・画像・動画には言語が必要ないことや、撮りたくなったり行きたくなったりする気持ちをどう作ってかについて座長から説明
- ・WSで映像で見せたいコンテンツ、動画コンテンツを洗い出し、そのコンテンツをお勧めする理由を発表

○第3回

- ・商品化に向けての必要条件の確認と課題の洗い出し、地域内の連携先や組手の検討について座長から説明
- ・「体験資源素材提案シート」から資源を選択し、ターゲットや強み、今後必要となる協力体制等魅力アップに必要なものについてWSで発表

○第4回

- ・「体験資源・素材提案シート」の集約結果の提供と完成に向け、インバウンド向けの商品オペレーションについて座長から説明し、WSで最終の検討を実施

県南エリア検討会 実施内容

○第1回

- ・着地型旅行商品の造成や流通の仕組み、新緑や冬のコンテンツを磨いて年間の客数の平準化が必要である旨、座長から説明
- ・WSで観光資源の洗い出しを実施

○第2回

- ・復興道路、復興支援道路等の整備が進み利便性が高まることや、競争が進む中で、地域ならではの「ニッチ」や「オリジナル」が必要である旨座長から説明
- ・WSでは「ニッチ」や「オリジナル」を踏まえた体験プログラムを考案し、「金」でつなぐ物語の旅行案等を発表

○第3回

- ・テーマ設定の重要性に加え、旅行者の心理、行動や思考を考え、組み合わせる「ペルソナマーケティング」について、座長から説明
- ・「体験資源素材提案シート」について、インバウンドの視点で1～3点の点数をつけ、WSで発表

○第4回

- ・「体験資源・素材提案シート」の集約結果の提供と完成に向け、インバウンド向けの商品オペレーションや販売促進に向けた流通の仕組みについて座長から説明し、WSで最終の検討を実施

機運醸成や意識啓発に向けた取り組みについて

- 「オール岩手」で外国人旅行者を受け入れる機運醸成や意識啓発を図る「126.8万人県民コンシェルジュ計画」の一環として、昨年9月から今年3月まで全10回(予定含む)の広告(次頁以降参照)を岩手日報に掲載。
- 広告には本事業の方向性に加え、会議やエリア検討会の進捗状況等について掲載。同時に、本事業の有識者委員(岩手大学教授)2名によるインタビューを掲載。情報発信による**機運醸成や意識啓発を図った**。
- 上記の内容に加え、東北及び岩手県を取り巻く外国人旅行者の現状について、復興庁の「東北観光アドバイザー会議」の提言や観光庁の「宿泊旅行統計調査」、岩手県の「岩手県観光復興対策実施計画」、「いわて国際戦略ビジョン」等の内容を踏まえ、解説を行った。
- 広告のほか、会議やエリア検討会については毎回プレスリリースを実施し、報道機関に対してフルオープンで開催。記事による情報拡散(下記参照)を図った。

これまでの新聞記事等の掲載状況(広告除く)

第1回会議(9/15実施)

外国人の誘客へ
コンテンツ探る
本県関係者初会合
本県と北東北の外国人観光客の誘客推進を図る「観光コンシェルジュ計画」の一環として、復興庁の「東北観光アドバイザー会議」の提言や観光庁の「宿泊旅行統計調査」、岩手県の「岩手県観光復興対策実施計画」、「いわて国際戦略ビジョン」等の内容を踏まえ、解説を行った。

本県関係者初会合
本県と北東北の外国人観光客の誘客推進を図る「観光コンシェルジュ計画」の一環として、復興庁の「東北観光アドバイザー会議」の提言や観光庁の「宿泊旅行統計調査」、岩手県の「岩手県観光復興対策実施計画」、「いわて国際戦略ビジョン」等の内容を踏まえ、解説を行った。



平成29年9月16日 岩手日報

平成29年9月15日 IBC岩手放送

「IBCニュースエコー」

<http://news.ibc.co.jp/item/31183.html>

※第1回会議は上記の他、岩手朝日テレビ「Jチャンネルいわて」でも放送。

第2回会議(11/13実施)

外国人旅行者向け
プラン検討会議
観光復興で東北大震災からの復興を進めようというインバウンド(訪日外国人旅行者)向けの旅行商品の検討会議が、盛岡市の復興庁岩手復興局で開かれた。県内の外国人宿泊者数は、従来約10人以上の宿泊施設で、2016年に12万3800人と過去最高に達した。年々増える外国人旅行者に、三陸沿道沿道の整備などで利便性を向上しつつある沿道にも足を運んでもらおうと、官民が連携して新たな旅行商品を開発するが狙い。

復興庁岩手復興局の岩手大教授(都市計画)・岩手大教授(都市計画)は「多くの人を巻き込み、地域振興を進められる旅行商品を作りたい」と話した。

平成29年12月8日 読売新聞(地方版) 朝刊

第1回県南エリア検討会@大船渡(10/3実施)



平成29年10月5日 東海新報

<https://tohkaishimpo.com/2017/10/05/177511/>

第3回県南エリア検討会@陸前高田(12/21実施)



平成29年12月22日 東海新報

<https://tohkaishimpo.com/2017/12/22/187490/>

(参考)取り組みに関する情報発信①

岩手を中心とした北東北のさらなる地域振興、復興のためには、海外からの旅行者の増加が重要です。

このプロジェクトには、各地域の観光産業に関わる人たち、食、町並みなどの資源を全て活用し、岩手を中心とした地域の復興と振興を皆で進めるという意味があります。大切なのは「地域と人たちが一緒に行く」ということです。

初回の会議では、皆さんがいろいろな視点でプロジェクトについて考えてくれました。観光客を受け入れる地域側の問題、観光コンテンツを

座長に聞く・岩手大理工学部 南正昭教授

どう商品化するか、商品化後に流通させるために必要なことは何か、などの課題が見つかりました。今後、課題を整理するための要因を洗い出し、一つずつ解決していく作業が必要になります。

岩手や北東北に住む皆さんに、このような取り組みの存在を知り、ぜひ地元を盛り上げることにやる気を出してほしいです。地域の活性化に向けて、はじめの一步を踏み出すために、この事業がこのタイミングで形になったのだと思います。

地域の良さを、地域に住む

人が自ら理解し、発信していく。それが海外の方々が岩手に来るための価値を発掘することにつながるはずです。このプロジェクトが新たな観光の形や地域づくりへとつながる一つのきっかけになればいいと思います。



実現へ

◇出席者
南正昭氏(座長・岩手大理工学部教授)
五味社平氏(岩手大人文社会科学部教授)
菅原達也氏(ナレッジハウス代表取締役)
岸石吉隆氏(ライト・ア・ライト顧問)
阿部昌幸氏(JTBグローバルマーケティング&トラベル営業企画部 地域誘客戦略推進室 地域交流推進部長)

企画・制作／岩手日報社広告事業局

「オール岩手」で インバウンド旅行者を 受け入れ



いわて外国人向け観光コンテンツ発掘プロジェクト(主催・復興庁)の第1回観光コンテンツプロデュース会議は15日、盛岡市で開かれました。被災地支援や観光推進、地域振興などに関わる委員が「事業の方向性と北東北および岩手県の課題について」「地域コンテンツ収集の際の視点について」などについて議論を交わしました。今後は県内を3地域に分けたエリア検討会を併せて開き、沿岸部を中心とした計15の誘客コンテンツ(商品)を開発します。

第1回観光コンテンツプロデュース会議

東日本大震災から6年半余が経過し、三陸沿岸では、高速道路整備などの復興・創生が急ピッチで進んでいます。本会議は、その各種の状況を踏まえ、外国人観光客の観点から、岩手の観光資源を磨き上げるために開催します。

阿部 インバウンドの観光コンテンツを作るには、どの季節をどのような形で魅力的にブラッシュアップしていくかが大事になってきます。東北の新緑は本当にきれいです。その時期は旅行客が少ない。そういう時期の魅力を発信し、観光にきていただけるようにできればいいと思います。

五味 季節性や、オリンピックなどのタイミングを加味し、全部の商品が相互に補い合うような視点があっても良いと思います。

岸石 泊まりたいから来るのではなく、やりたいことを全て体験するためには泊まらざるを得ないから泊まる、というような組み方をする必要もあると思います。

菅原 地域でどれくらいの商品数があるか、あがってくるのかの想定が難しいですね。地域に商品がある程度作ってもらい、我々がブラッシュアップする形なのか、あるいは入って商品を出していくのか考えなくてはいいと思います。

南 そのミッションはとても大切だと思います。地域の方に分かりやすい仕組みにするためには作ったコンテンツへの「採点結果」のようなものがあったほうが努力しやすいかもしれません。

阿部 商品の作り方を地域の皆さんと一緒に学んでもらうのが良いですね。インバウンドのコンテンツを作るのは大変です。その過程が将来地域の中で役立つような仕組み作りが地域に入る私たちのミッションです。

いわて外国人向け観光コンテンツ発掘プロジェクト

復興庁岩手復興局

第1回 北東北エリア検討会

復興庁が主催する「いわて外国人向け観光コンテンツ発掘プロジェクト」は、10月から県北・県央・県南の3地域でエリア検討会がスタートしました。3月までに沿岸部を中心にした計15のインバウンド旅行商品を開発します。第1回県北エリア検討会は10月3日に久慈市で開かれ、行政・観光関係者ら約20人が参加。プロジェクト実践委員の菅原達也さん（ナレッジハウス代表取締役）が誘客コンテンツの商品化に向けた考え方を紹介したほか、参加者でワークショップを行い、地域の課題や観光資源を共有しました。検討会の様子を紹介します。

あまちゃん、葛巻ワイン、八幡平ドラゴンアイ… 地域の宝を磨いて 旅行商品に

インバウンド誘客へワークショップスタート

菅原さんは「これから外国人はどんどん地方に来ます。皆さんは着地型の旅行商品をつくってほしいですが、外国人向けという概念にとらわれず、地域の強みを生かした商品作りを目指して下さい」とあいさつ。ポイントとして▽市場（マーケット）は常に動いていることを意識する▽明確なターゲット（国籍、家族、カッパル、お金持ちなど）を想定した商品づくり▽Wビジョンや理念を掲げ地域で共有する▽地域の中で連携する一などを挙げました。

その上で、地域の強みと弱みを知るSWOT分析の手法を紹介。参加者は3つのグループに分かれ、葛巻町、久慈市、八幡平市の観光資源を



ワークショップで観光資源を洗い出しをする参加者
（奥中央は菅原達也さん）



観光コンテンツとして魅力アップが期待される久慈市の「主祭の青女」

「あまちゃん」「葛巻ワイン」「八幡平ドラゴンアイ」などの観光資源をピックアップ。さらにそれらを①認知度②魅力度③愛着度④目録度の4つの観点から、5段階評価し、点数化しました。

菅原さんは「例えば③、④の点数が高いのに、①、②が低いものはPR不足、『あまちゃん』は海外ですごく有名ですが、久慈市よりも外国人向け海女ツアーを積極展開している三陸県馬場町の方が知られています。まずは馬場町を真似たり、同市と連携したりするところからはじめてもいいのでは？」などとアドバイス。「今回出された観光資源で点数が高いものを地域の宝として磨き上げたい。私自身、重要な地域資源でプログラムを組むのは楽しみ」と議論の深まりを期待していました。

Vol.1
識者インタビュー 岩手大理工学部 南正昭教授 プロジェクト座長

復興道路・復興支援道路を活用し 岩手の地域観光を育てる

現在、三陸沿岸道路や古川盛岡横断道路など、復興道路・復興支援道路の整備が進められている。県土の形が変わるといっていいほど、大きなインパクトのあることです。大幅に所要時間が短縮されることに加え、道路が多ルート化されることで防災性、信頼性が高まります。地域で産業や観光が成り立つとき、道路網が多ルート化して存在する意義は大きいということをもっと認識しなくてはなりません。

インバウンドの観光ネットワークを形成していく上で、道路インフラの整備は「骨格」

観光コンテンツ育成「民」が主役

道路事業は公的にバックアップされていますが、観光地やコンテンツを育てるのは「民」の力によるところが大きいです。今までは旅行

業者が観光地を組み合わせて商品化していましたが、今回のプロジェクトは地域の人が魅力ある観光コンテンツを考え、育て、売り込んでいくこととなります。言うなれば「いわて観光ネットワークシステム」を官と民が手を携えて作っていくのがポイントです。



三陸沿岸道路や古川盛岡横断道路など、復興道路・復興支援道路の整備が進められている。県土の形が変わるといっていいほど、大きなインパクトのあることです。

企画・制作／岩手日報社企画部

いわて外国人向け観光コンテンツ発掘プロジェクト②

復興庁岩手復興局

平成29年11月15日 岩手日報

8

(参考)取り組みに関する情報発信③

第1回県南エリア検討会・大船渡

復興庁が主催する「いわて外国人向け観光コンテンツ発掘プロジェクト」は、10月から県北・県中・県南の3地域でエリア検討会がスタートしました。3月までに沿岸部を中心にした計15のインバウンド旅行商品を開発します。第1回県南エリア検討会は10月3日に大船渡市で開かれ、行政・観光関係者ら約30人が参加。プロジェクト実行委員の阿部昌孝さん(JTBグローバルマーケティング&トラベル地域交流推進部長)が誘客コンテンツの商品化に向けた考え方を紹介したほか、参加者でワークショップを行い、地域の課題や観光資源を共有しました。検討会の様子を紹介します。

国内旅行オフシーズンこそ誘客の好機 新緑、冬のコンテンツも磨き 年間の客数の平準化を

着地型旅行商品作りへワークショップ

阿部さんは「岩手には素晴らしい観光資源があります。それを磨き上げると同時にきちんと流通させ、いかに地域活性化につなげるかが重要です。また、県南エリアは今後、復興でインフラ整備が進みます。そのことを踏まえた着地型の旅行商品を目指したい」とあいさつし、商品作りのポイントを解説しました。

2016年の訪日外国人旅行者数をみると、東北は10月、春の桜のシーズンも多い一方、5月の新緑の時期は国内旅行客も少ない点を挙げ、「宿の空き室がある時期に力を入れると効果が良い。素晴らしい岩手の新緑を象徴するコンテンツを徹底的にブラッシュアップすればマーケットの中で外国人旅行者を誘導できます。冬期にも力を入れ、

年間を通して客数を平準化させることが大切」と、オン・オフシーズンを意識した商品作りの重要性を強調しました。

また、日本人向けと外国人向けで、旅行商品の「手仕舞い日(いつまで予約を受けられるか)」の違いを説明。「例えば、旅行中に『明日、時間がある。何して遊ぼうか』というニーズに対応できるのがインバウンドの着地商品。当日でも予約を受けられればベストです。商品に『在庫化』して管理・販売する仕組みも考えなければ」と指摘しました。

磐石海岸を代表する景観「穴通磯」(大船渡市)

Vol.2

インタビュー

岩手大人文社会科学部 五味壮平教授

震災の教訓を観光メニューに 外国人への伝え方に工夫が必要

岩手大人文社会科学部 五味 壮平教授

東日本大震災の教訓を伝えるため、沿岸各地では防災を学ぶことのできるコンテンツが次々作られています。震災当時の状況をリアルに体験できたり、震災を経験した人の生の声を聞くことができたり、という機会を作りそれをインバウンドに活用するのは大事な視点です。

ただし、一般的に外国人が震災について学ぶだけのために訪れるということは

被災者の生の声こそ心に響く

少ないでしょう。観光の多様な選択肢の中の一つという位置づけになると思いいます。

また、外国人に震災を伝える際、どのような見せ方をすればいいかという難しい問題です。震災のダイナミックな部分を強調するのは、「復興・希望」というような明るい側面を強く出すのか、両方考えられると思います。どういったコンテンツにしたら外国人のみなさんに「ああ、震災の時ってこうだったんだ」と深く心に落ちるのか、我々も考えていかなければいけません。

例えば広島の場合、戦争

震災遺構として保存されている「道の駅(岩手県大船渡市)」。地元ガイドが震災の教訓を伝える活動を行っている。

から70年以上が経つわけですが、今でも我々の心にある種のリアリティーを持って訴える力があります。災害の記憶を何十年も先に残すためには、相当な努力と工夫が必要になるでしょう。私自身も、やはり人が持つ迫力が大事だと思っています。そして伝え方のパリエーションを増やしていくことも将来のために必要なことだと感じています。

企画・制作/岩手県観光協会

いわて外国人向け観光コンテンツ発掘プロジェクト③

復興庁岩手復興局

(参考)取り組みに関する情報発信④

第1回復興エリア検討会・山田

復興庁が主催する「いわて外国人向け観光コンテンツ発掘プロジェクト」は、10月から県北・県央・県南の3地域でエリア検討会がスタートしました。2月までに沿岸部を中心にした計15のインバウンド旅行商品を開発します。第1回復興エリア検討会は10月4日に山田町で開かれ、行政・観光関係者ら約25人が参加。プロジェクト実践委員の宇石吉隆さん(ライト・ア・ライト顧問)が誘客コンテンツの商品化や情報発信のポイントを紹介したほか、参加者でワークショップを行い、地域の観光資源を共有しました。検討会の様子を紹介します。

岩手の「当たり前」が観光資源になることも！ 情報発信は心に届く手法で 「インスタ映え」も意識して

地域の観光コンテンツを共有し、ワークショップで情報共有

旅行商品作りとPR強化へワークショップ

宇石さんは「身の回りの観光資源をどう磨き、どう発信し、どう受け止めてもらうか。そして、来てもらったらどう感動してもらい、リピーターとなってもらえるかが重要」と話し、自身が東日本大震災後に被災地で関わった「三陸に仕事をプロジェクト 浜のミサンガ職人」、炊きだし事業「復興食堂」について紹介しました。

浜のミサンガ事業は、制作した動画がTV各局に取り上げられ、インターネットでも拡散されたことで、売上げ・話題性ともに大きな反響を呼ぶ事業に成長。「人の心に響くコンテンツは、うまく発信できれば気持ちがどんどん集まっていく。確実に人に届く手法で発信しよう」とコンテンツ磨きと平行した情報発信の重要性を説きました。

山田町の自然観光「漁師さんの船で行く山田湾クルーズ」。コンテンツの磨き上げと同時に情報発信の工夫も必要だ

また、外国人観光客が多い奈良市の事例も紹介。同市は、奈良公園周辺の15000

その後、参加者は3、4人のグループに分かれて、地域の観光資源をピックアップするワークショップを行いました。山田町の関係者は、洗い出したコンテンツを組み合わせて山田湾やオランダ島周辺で丸一日楽しめるツアーを考案。宇石さんは「水中ドローンで山田湾の海中を撮影するなど、コンテンツの見せ方は工夫次第」とアドバイスしていました。

Vol.3
聞き手インタビュー 岩手大理工学部 南正昭教授
プロジェクト座長

求められる「道の駅」の機能多様化 立ち寄りたくなる地域観光の拠点に

復興道路・復興支援道路のネットワークをインバウンドに活用していくときに、道の駅の果たす役割は非常に大きいでしょう。三陸沿岸道路はサービスエリア(SA)を持たない道路であり、かつ無料です。道の駅がSAや観光・道路情報を提供する窓口、あるいは観光地そのものの役割を果たすことになり、岩手の地域観光ルートを構成する上での拠点になり得ます。道の駅は既存の枠にとらわれず、宿泊機能を持たせたり、子供を遊ばせられるアミューズメント機能を付加したりなど、今よりも

三鉄の魅力を最大限に活用

と立ち寄りたくなるような場所に変えていくことができます。また、復興道路・復興支援道路ができることによって「現道(現在使われている道路)」「利用も再考しなればなりません。現道は串々浦々の自然景観や街並みへのアクセス道路としての役割も果たすことになるでしょう。通過交通ばかりでは復興道路・復興支援道路を地域で十分に活用することになりません。三陸鉄道も沿岸観光の重要なファクターです。今も企画列車を運行しています。が、外国人に受けられるよう

山田町の自然観光「漁師さんの船で行く山田湾クルーズ」。コンテンツの磨き上げと同時に情報発信の工夫も必要だ

いわて外国人向け観光コンテンツ発掘プロジェクト④

復興庁岩手復興局

平成29年11月29日 岩手日報

10

(参考)取り組みに関する情報発信⑤

Vol.4
インバウンド
岩手大 人文社会科学部 五味 壮平教授（プロジェクト委員）

ラグビーW杯、五輪が誘客の好機 ディープな岩手ファン獲得を

2019年の三陸防災復興博（仮称）とラグビーW杯、20年の東京五輪で、たくさんの外国人旅行者が岩手に来ると思いますが、私は一連のイベント後が重要であり、イベントをきっかけにリピーターを獲得するかが大切だと感じています。

何度も足を運んでくれるディープな岩手ファンになってもらうためには、単に歓迎するだけでなく、1回来た観光客の顔と名前を覚え、人柄を理解し、記憶し、そしてそれが後々まで残っている、という状況を意識的に作る必要があると

キャンプ誘致で関係性構築

県内ではラグビーW杯への機運を盛り上げるイベントも行われています。まずは地元の人たちがイベントを楽しめ、喜んで外国人を迎える状況を作ることができればいいと思います。

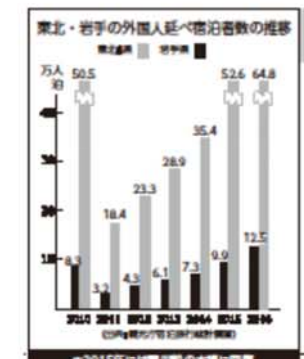
また、盛岡市はカナダ水球チームの五輪事前キャンプ地に決まりましたが、こうしたキャンプ誘致の可能性はまだまだ残っています。キャンプをきっかけに姉妹都市や友好都市になるなど、交流が広がることを期待できます。

特に沿岸市町村は、深い関係性を築く機会を持って



企画・制作／岩手県観光協会事務局

増えるインバウンド、目指せ150万人泊！ 東北のシェアわずか「1%」 潜在能力生かせるか正念場



これらの数字から見ても、東北はインバウンド誘客の後進地と言わざるを得ません。背景には一部の国や地域で依然として震災に対する根強い風評被害がある▽海外における東北の認知度が低い▽直行便が少ないなどアクセスが不便などが挙げられます。しかし、東北は全国一位の

復興庁が主催する「いわて外国人向け観光コンテンツ開発プロジェクト」は、来年3月の成果発表会（仮称）に向けて、県内3地域でエリア検討会を行っています。日本のインバウンドは近年急増していますが、東北はその流れから大きく遅れをとっているのが現状です。そうした中で政府は、「東北の外国人延べ宿泊者数を2020年に、15年の50万人泊の3倍となる150万人泊に押し上げる」という目標を掲げており、16年4月にとりまとめられた「東北観光アドバイザー会議」の提言等を踏まえ、官民挙げて観光復興に向けた取り組みを進めています。今回は、東北や岩手のインバウンドの現状がどうなっているのか、データで見ながら課題を共有します。

外国人旅行者 東北・岩手の現状

観光庁の「宿泊旅行統計調査」によると、外国人延べ宿泊者数は2010年の約260万人泊から、16年は約640万人泊と約2.5倍も伸びています。一方、地域別の内訳を見ると16年の東北の外国人延べ宿泊者数は約64万8000人泊で、シェアはわずか1%。岩手は約12万5000人泊で全国シェアに占める割合は0.2%に過ぎません。

また、東北の外国人延べ宿泊者数の推移を見ると、10年に約50万人泊だったのが、11年の東日本大震災で約18万人泊まで落ち込みました。15年に約53万人泊まで回復し、ようやく震災前の水準になりました。

2016年の外国人延べ宿泊者数	
全 国	64,066,730人泊
東北6県	648,430人泊
岩 手 県	125,330人泊

（出典：2016年観光庁宿泊旅行統計調査）
※従来調査10人以上の施設における延べ宿泊者数

あり、国内旅行の市場では一定の地位を築いています。増え続けるインバウンドの受け入れ先として、東北の持つ余力を生かす取り組みが重要です。岩手にも高い潜在能力があり、ラグビーW杯、三陸防災復興博（仮称）、五輪などをきっかけに、飛躍できるかが復興の観点からも鍵となります。

プロジェクト実践委員の阿部昌孝さん（JTBグループ・ラルマー・マーケティング＆トラベル）は、「人口減少社会の中でインバウンドの取り組みは重要。15年の定住人口1人当たりの年間消費額は約125万円、外国人1人の1回当たりの旅行消費額は約17万6000円といわれていますので、8人が来て地域で消費すると定住人口1人分を補完できます」と話しています。

いわて外国人向け観光コンテンツ開発プロジェクト⑤

復興庁岩手復興局

データで見るインバウンド①

岩手のブランドイメージどうつくる？ 半数を占める台湾人旅行者 市場別のプロモーションが鍵

復興庁が主催する「いわて外国人向け観光コンテンツ開発プロジェクト」は、来年3月の成果発表会(仮称)に向けて、県内3地域でエリア検討会を行っています。日本のインバウンドは近年急増していますが、東北はその流れから大きく遅れをとっているのが現状です。そうした中で政府は、「東北の外国人延べ宿泊者数を2020年に、15年の50万人の3倍となる150万人泊に押し上げる」という目標を掲げており、16年4月にとりまとめられた「東北観光アドバイザー会議」の提言等を踏まえ、官民挙げて観光復興に向けた取り組みを推進しています。今回は、岩手にどの時期にどの国や地域から旅行者が来ているのか、データで見ながら課題を共有します。

市場別外国人旅行者 岩手の現状

観光庁の「宿泊旅行統計調査」によると、2016年の本県の外国人延べ宿泊者数は約12万5000人泊。そのうち台湾や中国など、東アジアは74.6%を占めます。中でもチャーター便などで年々増加している台湾の宿泊者数は、約6万5000人泊で全体の半数以上になっています。しかし同じ東アジアの韓国や香港は震災前の水準に達しておらず、風評被害の影響が考えられます。数は少ないもののオーストラリアは10年の870人泊から16年は3510人泊と約4倍の伸びで、スキー目的の増加がみられます。



東アジアだけで74.6%を占める

岩手の外国人延べ宿泊者数を月別に見ると、4、10月が最も多くなっています。これには「桜と紅葉」を旅の主目的とする台湾人旅行者の動向が大きく反映されています。一方、夏と冬が少なく、この時期の誘客に課題があります。

岩手と似た気候の北海道は12月〜1月、7月が多く、本県と比較するとほぼ逆のグラフを描きます。プロジェクト実行委員の宮原達也さん(ナレッジハウス代表取締役)は「小さな国際村」を標榜する北海道二世町はスノーリゾートとしての継続的な海外向けプロモーションにより、多くの外国人が集まる町としてここ数年で注目を集めていると述べており、プロモーション次第で岩手でも底上げを図れる余地があります。岩手でインバウンドの取り組みを進めるには、国や市場別のニーズを把握・分析し、きめ細やかなアプローチをしていく必要があります。雪、温泉、郷土芸能、復興などのコンテンツを生かし、岩手のブランドイメージをつくる戦略も重要です。また、風評被害が根強く残る市場には、粘り強く正確な情報を発信することが求められます。

Vol.5

記者インタビュー

岩手大理工学部 南 正昭教授(プロジェクト座長)

外国人が安心してできる情報提供とは 多言語化、ガイド育成に注力

復興道路・復興支援道路など、交通インフラの整備に合わせて、岩手の地域観光を運搬して育んでいきたいと思いますという話を前向きに受け止めたが、地域観光を支える「モノとヒト」のネットワークづくりが重要でしょう。

まず、情報提供の仕方を画期的に変えなければいけません。公衆無線LAN(Wi-Fi)の整備を早急に進める必要があります。海外旅行先で情報を入手するのはインターネットです。ネットにつながらない所へは来ないという人がいます。次に、観光ガイドや防災ガイドな

Wi-Fi整備は喫緊の課題

観光を支える人をどう配置するかも大切です。手軽に情報が入手できて現地に対応できる人がいることが、旅の安心感につながります。今回の事業の目標である「126・8万人県民コンシェルジュ計画」を実現するためには、コンシェルジュが案内に使う道具(媒体)の準備が不可欠です。観光マップやパンフレットは多言語に翻訳しておき、岩手の観光情報を検索できるサイトも、一つのサイトに集約しておけば利用しやすいでしょう。



復興道路・復興支援道路など、交通インフラの整備に合わせて、岩手の地域観光を運搬して育んでいきたいと思いますという話を前向きに受け止めたが、地域観光を支える「モノとヒト」のネットワークづくりが重要でしょう。

いわて外国人向け観光コンテンツ開発プロジェクト⑥

復興庁岩手復興局

(参考)取り組みに関する情報発信⑦

Vol.6

復興インタビュー

岩手大 人文社会科学部 五味 壮平教授（プロジェクト委員）

「陸前高田グローバルキャンパス」

国内外との深い絆が生まれる拠点

一般的なインバウンド観光と少し視点が違います。海外と岩手をつなぐ窓口の一つとして、陸前高田市に今年4月に開所した「陸前高田グローバルキャンパス」を紹介したいと思います。岩手大と立教大、陸前高田市で共同運営する施設で、講義室や研究室など、短期間・長期開校がられるレンタルスペースがあります。

震災後、陸前高田市には国内外からたくさんの方々が来たり、学びに来たりして、それが地域にとって一定の刺激になっています。この

まちづくりに外国人の活力を

地を訪れた事がきっかけで移住した人もいます。陸前高田市は、それだけの魅力と力を持った場所です。開校以降、当初の予想を超えて利用いただいています。米・ハーバード大と岩手大の学生との交流なども生まれました。

私はこのキャンパスを「ディープなつながりをつくる拠点」にしたいと思っています。ただスペースを提供するのではなく、ここに来ることで地元の人とつながったり、来た人同士がつながったりすれば、地元の人にとっても外国人も含めた訪問者が「よく分から



陸前高田グローバルキャンパスの活用状況（左）と米・ハーバード大との交流（右）

黄金文化、五右衛門風呂、龍泉洞の透明度…。

岩手ならではのアイデア続々 「体験」「交流」「発信」が鍵に



多くの観光客が訪れる岩手県。黄金文化、五右衛門風呂、龍泉洞の透明度…。岩手ならではのアイデア続々「体験」「交流」「発信」が鍵に

復興庁が主催する「いわて外国人向け観光コンテンツ発掘プロジェクト」は、県北・県央・県南の3エリアで検討会を行っています。各エリアの市町村や観光関係者らが出席し、観光コンテンツの磨き上げが行われており、来年3月の成果発表会（仮称）に向けて、計15のインバウンド旅行商品を開発します。岩手には地元の人だからこそ提案できる、外国人が知らない魅力的なコンテンツが数多く点在していますが、「点」と「点」をどうつなぎ、どう商品化していくかが課題となっています。今回は11月までに

インバウンド旅行商品開発に議論深まる

各エリア検討会では、実践委員のアドバイスに基づき観光資源の掘り起こしや体験型ツアーづくりを行っています。

県北エリアでは、「地元の人の交流」をキーワードに、ツアーを考案しました。久慈地域の参加者は、漁師との交流や五右衛門風呂に入っ

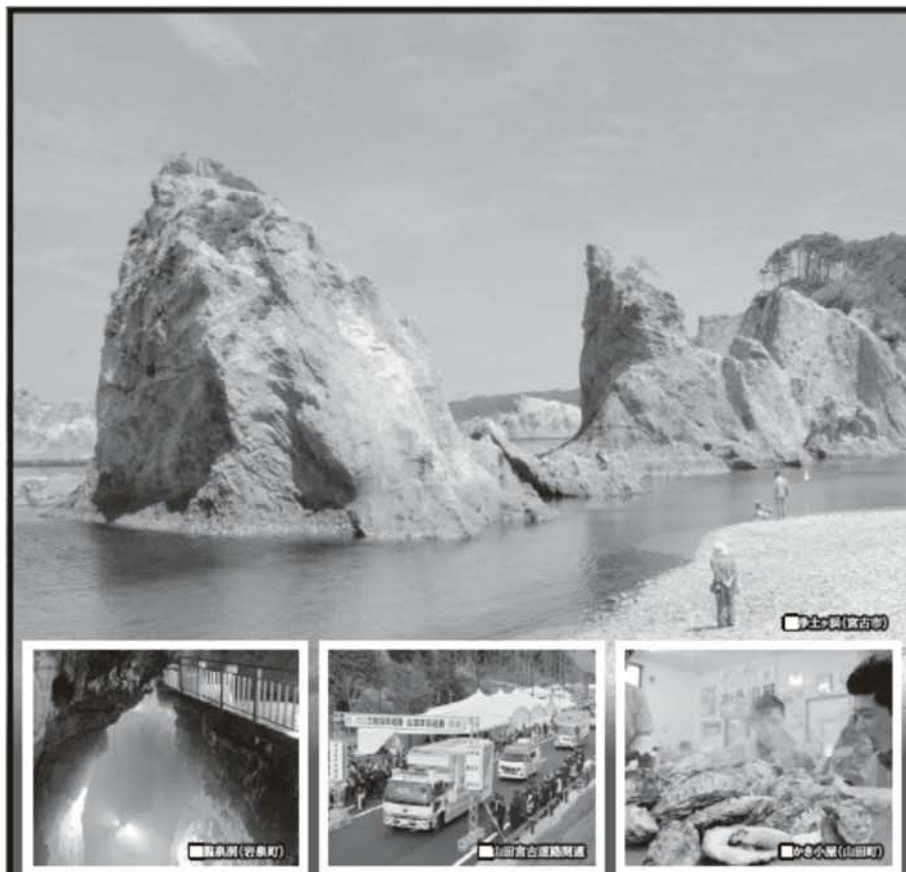
から昇る朝日をタイムラプス撮影する」、「龍泉洞の地底湖の透明度は冬が最も安定する」、「山田のかき小屋で牡蠣が蒸し上がるシーンは見逃さぬ」といった意見が出されました。

県南エリアでは、「黄金文化」をテーマに、中尊寺金色堂、秀衡堂体験、住田町の砂金採取体験など、「金」でつなぐ物語の旅行案が示されました。同エリアの実践委員からは「気仙地方（陸前高田市、大船渡市、住田町）には金山跡が数多く残っており、『金』は平泉と岩手をつなぐフックとなりうるテーマ。一方、体験系のコンテンツは、作ったものをすぐに持ち帰れるかどうかで課題になる」といった話がありました。

いわて外国人向け観光コンテンツ発掘プロジェクト⑦

復興庁岩手復興局

(参考)取り組みに関する情報発信⑧



「いわて三陸観光復興推進フォーラム」

～「復興・創生期間」における交通基盤整備を活用した観光復興を考える～

2018年3月19日(月)

14:00～16:20
(開場13:30)

入場無料

◆場所:浄土ヶ浜パークホテル

コンベンションホール 宮古市日立浜町32-4

◆定員:200名

お申し込み方法
郵便番号・住所・お名前・電話番号・参加人数を明記の上、はがき・FAX・メール・QRコードで下記までお申し込みください。受付後、参加証をお送りします。

お申し込み締め切り
3月12日(月) ※ただし定員になり次第締め切ります。

お申し込み・お問い合わせ先
岩手日報社広告事業局企画推進部
「いわて三陸観光復興推進フォーラム」係
〒020-8622 盛岡市内丸3-7
TEL 019-653-4119 (平日9:30～17:00)
FAX 019-626-1881
Mail: kankou@iwate-np.co.jp



※ご応募の個人情報、岩手日報社が参加証発行、フォーラム受付のみに使用します。

◆スケジュール

- 13:30 開場
- 14:00 第1部「インバウンド誘客へ向けた取り組み」
- 14:02 主催者あいさつ
- 14:05 いわて外国人向け観光コンテンツ
発掘プロジェクト成果発表会

【本プロジェクトにおける
「エリア検討会」出席者等による成果発表】

- 15:05 休憩
- 15:15 第2部「三陸沿岸道路等を活用した
市町村連携と観光地域づくり」

15:17 開催地あいさつ

15:20 パネルディスカッション

岩手三陸連携会議議長	宮古市長	山本 正徳氏
岩手大学理工学部	教授	南 正昭氏
岩手県地方港湾審議会	会長	宮本 卓次郎氏
国土交通省東北地方整備局	道路部長	阿部 悟氏
株式会社JTBCグローバルマーケティング&トラベル	営業企画部地域誘客戦略推進室	地域交流推進部長 阿部 昌孝氏

16:20 フォーラム終了

主催:復興庁 共催:岩手三陸連携会議 開催事務局:岩手日報社広告事業局企画推進部

いわて外国人向け観光コンテンツ発掘プロジェクト⑧

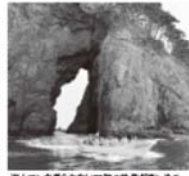
復興庁岩手復興局

「行ってみたい!」気持ちにさせるプロモーション

「オランダ島」「牧場」のドローン映像で観光地発信 SNSで拡散したくなるシーンづくりを意識して



聖右さんは、「面白そうやうと、地獄にお金が落ちやすくなります。また、写真を撮りたくなるようなスポットをたくさん用意すると、旅行者自身も情報発信してくる。旅行者のニーズに応えられるサービスでリピーターを増やしてほしい」とアドバイスしました。

[illegible]

「それは、
ク体
ネー
に業内
に能
市場の
透明の
が準

県央エリア検討会

コンテンツの自己評価で強みと課題が見つかる

「星空」「ワイン」組み合わせで魅力アップ
景観生かす「着地型」商品はアイデア勝負



「究地型」から「習地型」に移行していることを説明し、「習地型」は地域が主役で、作っていく空間。外国人を呼び込みたいという地域の盛り上がりが必要だと」と強調しました。

[illegible]

ハ横平
を生か
ウスハ
は、商
販を結
信泉の
なられ
イスが
大文台
ワイソ
あとう
食肉の

● 日本エリクソン教育研究所

復興庁が主催する「いわて外国人

北野天来庵

いわて外国人向け観光コンテンツ発掘プロジェクト⑨

「いわて三陸観光復興推進フォーラム」

～「復興・創生期間」における交通基盤整備を活用した観光復興を考える～



主 題 (書台組)

◆スケジュール(予定)

13:30	開場	
14:00	第1部「インバウンド」讀者へ向けた取り組み	
14:02	主権者あいさつ	眞田大直彦 市長 長尾 康正
14:05	14の市外県人向け観光・消費・観光推進プロジェクト成果発表会 【本プロジェクトにおける「エリア戦略」出席者による成果発表費	
15:15	第2部「三陸沿岸道路等を活用した町町連携と観光地域づくり」	
15:17	開演地あいさつ	
15:20	第1部ディスカッション 地区・地域関係者協議会	宮古市市長 山本 正徳 岩手大学工学部 教 授 西 正弘 岩手県地域振興推進協会 会 長 宮本 幸次郎
	三陸沿岸道路の活用と観光	渡 邊 孝 郎 氏 観光庁長官特別アドバイザー・ササニヤン・パブリック 関係者協議会協議会 代表理事 岩手県観光局
16:20	フェスティバル終了	阿部 昌幸氏

2018年3月19日(月)
14:00~16:20(開場13:30)
◆場所: 浄土寺浜パークホテル
コンベンションホール 富吉町2-15新井3-14
入場無料
 ◎定員 200名

企画・制作／地手田嶋社広告事業所

いわて外国人向け観光コンテンツ発掘プロジェクト⑨

ストーリー性を重視し、旅に味付け

「黄金文化」をテーマに平泉～気仙を巡る
外国人旅行者の周遊に「絶景」「食」「体験」



「僕は、一先きの買手だと思っていた。彼の手・高橋にまたがる金の座地が、高橋が獲得して日本通産省を自指す動きもあり、『黄金ルート』というテーマはすべてもおもしろい」と評価していました。また、着地型旅行商品の流通の仕組みや今後のプロモーションのポイントについても説明しました。

前田由、第4回松本市で開かれた。第3回は、参加者から出された各地の「コソシツ」を評価し、点数化して作業をした。第4回は台本と台詞を紡ぐという脚本作りのナマ性・ストーリー性を重視した旅行制作りに展開がなされた。

台湾から花巻を訪れた外国人旅行客となり四国めぐりからは一泊二日の組込グループからは、一泊の純粋旅、断崖深淵を駆け下る大船着の基石石帯を巡る「御蔵コース」、大船着の磯遊びや土産体験や会を楽しむ「西沢アワビコース」、住居目で絶景温泉体験する「入道コース」などのメニューが出た。

また、金石市グループからは、水スポーツ・スタンドアップパドルボード（SUP）の体験を組み入れたウララがけられました。

また、関川エリアでは早稲の「黄

あり
アー
てい
今だ
ふは
山は
今は
松本
田松
里臣
「王
男が
異な
グロ



「金」をテーマにした絵巻への
意匠が、この絵巻にみられる。

東京エリカ株式会社

金文化」や「金」をブツにしたツ

平成30年3月7日 岩手日報

※第10回については「いわて三陸観光復興推進フォーラム」の採録を3月30日に掲載予定

「体験資源・素材提案シート」について

- 岩手県民の「売りたいもの」のうち、「体験資源・素材提案シート」の形でご提案いただいたものについて、外国人旅行者の嗜好等を踏まえ、課題整理に向けたチェックポイントをブラッシュアップし、「売れるもの」とのマッチングを実施。
- 「売れるもの」についてはシートの完成版を英訳し、岩手県の観光資源をPRし、外国人旅行者の誘客を図るツールとしての活用を予定。
- 作業と並行して、旅行会社等の商品造成・販売側や外国人旅行者自身が求める「現地情報」について取りまとめを実施し、北東北の観光コンテンツ一覧も作成する。

※課題整理に向けたチェックポイントをブラッシュアップ
(完成版を英語に翻訳)

体験資源・素材提案シート(商品として必要な基本情報)	
提案市町村等名	久慈市
名称 (イベント・商品名等)	三陸鉄道 震災学習列車
ターゲット想定 (複数選択可)	☐ 一人旅 ☐ 家族 ☐ 夫婦・カップル同士 ☐ 友人 ☐ 女性同士 ☐ 男性同士 ☐ グループ団体・学校 ☐ その他
体験素材のテーマ (複数選択可)	☐ 自然景観 ☐ 食体験 ☐ イベント・祭り・伝統芸能 ☐ 温泉 ☐ 農家体験・漁業体験 ☐ 工芸品 ☐ ゴルフスポーツ ☐ 教育 ☐ その他 (震災学習)
料金	◆料金 ○県内団体: 一般車両35,000円、イベント車両41,000円 ○県外団体: 一般車両43,000円、イベント車両51,400円 ◆料金に含まれるもの 車両の貸切料金(税込)
取消料	
事前予約期限	
観光素材内容	◆所要時間 約 1 時間 ◆催行可能人員 最少 - 名 / 最大 48 ~ 57 名 ◆所要場所 三陸鉄道 久慈駅 ◆実施イメージ(画像) 
	◆実施日・実施期間・受入可能時間 毎日(但し、〇〇を除く) ◆ベストシーズン ☐ 春 ☐ 夏 ☐ 秋 ☐ 冬 ☐ 期間限定() ◆ガイド ☐ 日本語のみ ☐ 英語を話すガイド ☐ 中国語を話すガイド ☐ 韓国語を話すガイド ☐ その他() ◆年齢制限 1. 階段を自分で上れる方 ○ 2. ご自身で階段昇降は無理だが介助者が同行頂くことで昇降が可能の方 △ 3. 介助者が同行する車椅子ご利用の方 △ ◆実施団体 三陸鉄道株式会社 久慈駅 0194-52-0177 ◆問合せ先 三陸鉄道株式会社 久慈駅 0194-52-0177 ◆連絡先 三陸鉄道株式会社 久慈駅 0194-52-0177 ◆その他 (注意)
	◆お勧め料理(名物料理) 1 カツラーメン(ラーメン千草) 1 久慈琥珀博物館 1 まめおせ 2 うに弁当(三陸リアス亭) 2 あまちゃんハウス 2 黒豆ケーキ 3 たまごサンド(喫茶モカ) 3 道の駅 土風館 3 ぶずのこ

体験資源・素材提案シート(商品として必要な基本情報)	
Name of Proposed City, Town, or Village, etc.	Kuji City
Staff's Name, Job Title, and Association	Kenshi Ouchi, Section Chief, Tourism Exchange Section TEL: 0194-52-2123
Title (Event, Product Name, etc.)	Sanriku Railway Earthquake Education Train Ride
conceivable Target Participants (Multiple Selections Possible)	☐ Individual tourists ☐ Groups of friends ☐ Families ☐ Couples ☐ Groups of women ☐ Groups of men ☐ Groups/organizations/school ☐ Other
Activity Related Themes (Multiple Selections Possible)	☐ Natural landscapes ☐ Food experience ☐ Events/festivals/traditional performing ☐ Hot Springs ☐ Hands-on farming/fishing activity ☐ Crafts ☐ Golf-Sports ☐ Education ☐ Other ()
Fees	◆Fees Organizations from Iwate Prefecture: 35,000 JPY for a regular train, 41,000 JPY for a special event train Organizations from outside of Iwate Prefecture: 43,000 JPY for a regular train, 51,400 JPY for a special event train. ◆Included in Fees Fee for renting out the train (incl. tax)
Cancellation Fees	
Advance Reservation Deadline	
◆Required Time	Approximately 1 hour
◆Overview (Selling Point)	Sanriku Railway employees, and residents who live along the train line, talk about the events of the Great East Japan Earthquake on board a moving train. The train stops or slows down so passengers can enjoy the view. Topics such as conditions at the time of the earthquake, and the present state of affected areas and current problems are explained in a panel discussion. The duration of the ride is one hour.
◆Potential Participant Limits	48-57 people maximum
◆Image (Picture) of Activity	
◆Activity Days/Activity Times/Reception Hours	Every day
◆Best season	☐ All year ☐ Spring ☐ Summer ☐ Autumn ☐ Winter ☐ Limited time()
Tourism Related Details	◆Your Guide Languages ☐ Japanese only ☐ English ☐ Chinese ☐ Korean ☐ Other ◆Age Limitations ◆Accessibility Information 1. People who can independently ascend stairs ○ 2. People who can ascend stairs accompanied by an aide, even if they cannot ascend stairs independently △ 3. People in wheelchairs accompanied by an aide △ ◆Activity Implementing Organization Sanriku Railway Kuji Station 0194-52-0177 ◆Inquiries Sanriku Railway Kuji Station 0194-52-0177 ◆Contact Information Sanriku Railway Kuji Station 0194-52-0177 ◆Other Note:
Recommended Area Facilities & Information	◆Recommended Cuisine (Local Specialties) 1. Katsuo Ramen (deep-fried pork served over ramen noodle soup at Ramen Chigusa restaurant) 2. Uni Bento (sea urchin served over rice at Sanriku Rias Tei restaurant) 3. Egg Sandwich (served at Caf'e Moka) ◆Recommended Tourist Facilities (within 50 minutes) 1. Kuji Amber Museum 2. Amachan House (tribute to locally filmed TV show "Amachan") 3. Michi-no-Eki Dofukan Roadside Station ◆Recommended Local Souvenirs 1. Mamebu Bouchee (cake pastry) 2. Kurumame Cake (black bean cake) 3. Busu-no-Kobu (red bean pastry)

「いわての観光案内ツール(仮称)」について

- 先述の「体験資源・素材提案シート」の観光コンテンツのうち、優良なものについて、沿岸市町村は原則2つずつ、それ以外の市町村は原則1つずつ、下記の形で「いわての観光案内ツール(仮称)」に掲載。
- ツールについては差し換え可能となっており、今後のブラッシュアップ等にも対応可能。
- 観光案内所や鉄道駅、ホテル等に配布・設置し、外国人旅行者の滞在時の満足度の向上や地域内周遊促進等を図る。

※作成イメージ(左ページの見出しと概要について、英語のほか、簡体字、繁体字、韓国語に翻訳)

県北
久慈市

三陸鉄道 震災学習列車

三陸鉄道社員または、沿線住民が車内で震災の状況などをご案内します。被災状況をご覧いただける場所に一旦停車又は徐行運転します。「震災当時の様子」、「今の被災地の状況・現状の問題」などをパネルを使いながら説明します。乗車時間は約1時間となります。

所要時間 約1時間(久慈駅へ田野畑駅間)

料金 ○県内団体：一般車両 35,000円、4人/外車両 41,000円 ○県外団体：一般車両 43,000円、イベント車両 51,400円

催行可能人数 最大48～57名 ※料金に含まれるもの：車両の貸料金(税込)

日本語

事前予約期限：一ヶ月前 ■ 年齢制限：なし
■ 実施日・実施期間・受入可能時間：毎日

お問い合わせ 三陸鉄道株式会社 北リアス線 運行部
TEL 0194-52-3411

English

Sanriku Railway Earthquake Education Train

Sanriku Railway staff or local residents will provide you with information about the earthquake situation inside the train. The train stops or slows down so passengers can see sites affected by the earthquake. Topics such as conditions at the time of the earthquake, and the present state of affected areas and current problems are explained in a panel discussion. The duration of the ride is one hour.

Required Time Approximately 1 hour (Between Kuji Station and Tanohata Station)

Price Operations from Iwate Prefecture: 35,000 JPY for a regular train, 41,000 JPY for a special event train. *Excluded is price.

Maximum Participants 48-57 people maximum

Language: Japanese, English, Chinese (Simplified), Chinese (Traditional), Korean

中文(简体)

三陸鉄道 震災学習列車

三陸鉄道社員または沿線住民が車内で震災の状況などをご案内します。被災状況をご覧いただける場所に一旦停車又は徐行運転します。「震災当時の様子」、「今の被災地の状況・現状の問題」などをパネルを使いながら説明します。乗車時間は約1時間となります。

所要時間 約1時間(久慈駅へ田野畑駅間)

料金 ○県内団体：一般車両 35,000円、4人/外車両 41,000円 ○県外団体：一般車両 43,000円、イベント車両 51,400円

催行可能人数 最大48～57名 ※料金に含まれるもの：車両の貸料金(税込)

中国語(簡体字)

中文(繁体)

三陸鐵道 震災學習列車

三陸鐵道社員または沿線住民が車内で震災的狀況などをご案内します。被災狀況をご覧いただける場所に一旦停車又は徐行運轉します。「震災當時的様子」、「今の被災地的狀況・現狀的問題」などをパネルを使いながら説明します。乘車時間約1小時。

所需時間 約1小時(久慈站至田野畑站間)

費用 ○縣內團體：一般車輛 35,000日圓、4人/外車兩 41,000日圓 ○縣外團體：一般車輛 43,000日圓、活動車輛 51,400日圓

可參加人數 最多48～57人 ※費用包含車輛租金(含稅)

中国語(繁体字)

한국

산리쿠 철도 지진재해 학습열차

산리쿠 철도 직원 또는 인근 주민이 차량 내에서 지진 피해 상황을 안내합니다. 지진 당시의 상황, 현재의 피해 지역 및 현재의 문제에 대해 패널 토론을 통해 설명합니다. 여행 시간은 약 1시간입니다.

필수 시간 약 1시간 (구지역에서 탄호타역까지)

요금 ○지역 단체: 일반 차량 35,000원, 4인/외차 41,000원 ○외국 단체: 일반 차량 43,000원, 이벤트 차량 51,400원

최대 인원 48~57명 ※요금에 포함된 것: 차량 임대료(부가세 포함)

한국어

スオ周
ボス
ツス
トメ

オススメ料理 カツらーめん

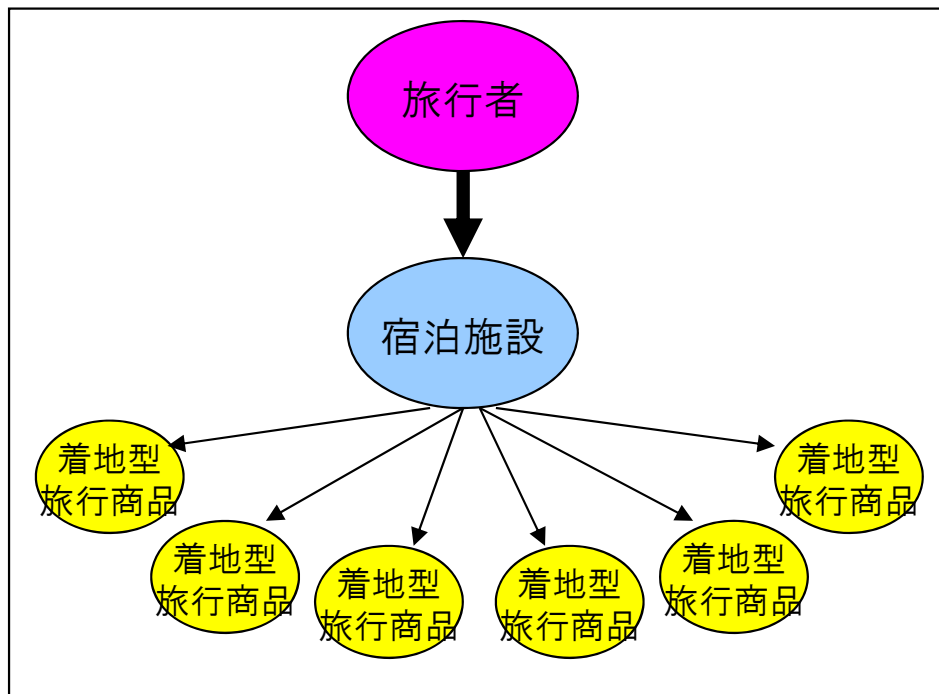
オススメ観光施設 あまちゃんハウス

オススメお土産 まめぶっせ

本事業における成果物の背景①

旅の過ごし方重視の旅行者へと変化

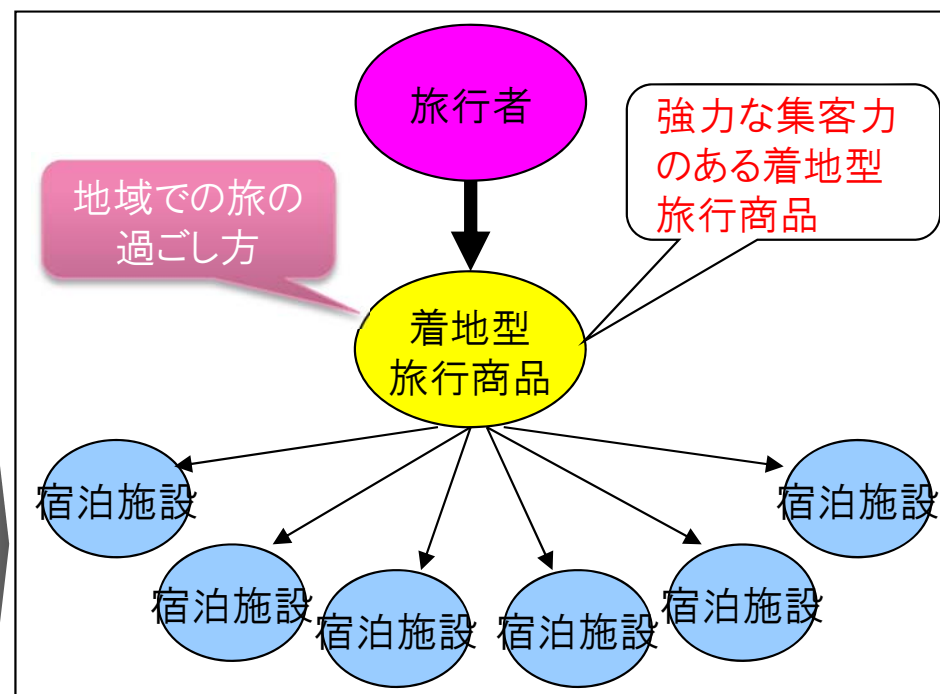
従来の旅行申し込みの流れ



これまでは、旅行方面を決めた後に宿泊施設を決めて予約を行い、その後に地域が取り組む着地型旅行商品に興味があれば申し込みという流れになっている。

第3種旅行業を取得している組織が主催する商品については、旅行代金を事前に収受せず、当日支払いとなるケースがほとんどである。

旅の過ごし方重視の旅行申し込みの流れ



方面を決めてから過ごし方を考えるのではなく、話題性のある着地型旅行商品への参加を目的とした旅の過ごし方を重視した旅行者が増加傾向にある。

団体旅行から個人旅行へ旅行のスタイルが変化する中で、新たな着地型旅行の仕掛けが新たな顧客の開拓にもつながる。

本事業における成果物の背景②

五感に訴えるシナリオづくり



＜これからの旅のキーワード＞

品質や価格などの「スペック」ではなく、地域の歴史・生活文化を生かし、「五感に訴えるシナリオづくり」で旅の過ごし方を訴求する。

課題整理に向けたチェックポイント8つ

市場ニーズとのマッチング

交通の利便性

隣県コンテンツとの差別化の可能性

セールスポイントの分かりやすさ

SNS投稿向けの画像への期待度

受け入れ環境(人材、多言語ツール等)

金額の妥当性

想定されるターゲット

旅行商品造成(例)

○先述の「体験資源・素材提案シート」等で提案いただいた体験コンテンツの内容を踏まえ、15の「旅行商品」を造成

カテゴリーブランド(例)

■DAY TRIPS 日帰りツアー

通訳案内士または現地幹旋員、多言語添乗員同行のバスツアー、ウォーキングツアー、体験ツアー、ナイトツアーや食事プラン等

■MULTI-DAY TOURS 宿泊付 周遊型商品

通訳案内士または現地幹旋員・多言語添乗員同行の宿泊付 周遊型商品や送迎プラン

■FREE & EASY フリープラン

通訳案内士や幹旋員無しの自由旅程型商品
ホテル＋素材 パッケージ

■TRAIN PACKAGE トレイン&ホテル パッケージ

新幹線 パッケージ

■EXTRAS 素材型商品

通訳案内士や幹旋員無しの観光オプション、食事プラン、輸送素材、エンタメチケット等

体験コンテンツの提案状況について

- 「体験資源・素材提案シート」等で提案いただいた体験コンテンツについては、既存のものも含めて各市町村から100コンテンツ程度提出済み。
- 具体的には、田野畑村の「北山崎サッパ船アドベンチャー」、山田町の「三陸の楽園 無人島オランダ島でシーカヤック」、大船渡市の屋形船「潮騒」等が提案されており、大きく分けて以下の4カテゴリに分類される。

歴史・文化

内陸と沿岸を「共通のテーマ」で結ぶもの

具体例

- ・黄金の国ジパングいわて
「中尊寺をはじめとする黄金文化」という歴史文化のテーマで結んだもの。世界遺産中尊寺、G7贈答品の秀衡塗、気仙川の砂金採り体験、陸前高田の玉山金山黄金探訪 等
- ・いわて塩の道(ソルトロード)再現商品
野田村の塩を活用した『ソルトロード』という岩手らしい歴史文化のテーマで結んだもの。滝沢市チャグチャグ馬コ体験、のだ塩作り体験等
- 中尊寺という知名度の高い世界遺産を軸に、内陸の縦軸で回られる観光コースや観光商品が多い中、内陸と沿岸を結ぶアイデア

四季

岩手県の強みである春夏秋冬を活かしたもの。
ラグビーW杯釜石大会や三陸防災復興博(仮称)で活用できるもの

具体例

- ・釜石の日本初レスキューボート体験や、山田町のオランダ島シーカヤックなどの夏の体験
宿泊箇所と連携することで、送迎付き商品としても訴求が可能なもの
- ・盛岡市と宮古市を結ぶ106急行線の秋の紅葉ツアー

飛行機新幹線INの内陸と、フェリークルーズINの沿岸をつなぐアイデア

自然

6月就航の宮古・室蘭間フェリーの客や、富裕層のクルーズ旅行など、海から訪問する外国人旅行客向けのもの

具体例

- ・三陸ジオパーク
宮古市の「浄土ヶ浜」、田野畑村の「北山崎」、「北山崎サッパ船アドベンチャー」、岩泉町の「龍泉洞」といった自然の驚異を結んだもの。
- ・秘湯めぐり
近年SNS映えして話題となっている八幡平市の「ドラゴンアイ」や秘湯と呼ばれる雫石町の「国見温泉」、八幡平市の「藤七温泉」など自然の驚異を結んだもの。

食

ナイトコンテンツや朝の体験コンテンツなど、宿泊しなければ体験出来ない魅力的なもの

具体例

- ・洋野町の満点の星空でワインナイト × グリーンヒル大野 等
- ・普代村の早朝網起こし体験 × 国民宿舎くろさき荘 等
- ・大船渡市の屋形船「潮彩」 × 大船渡プラザホテル 等

ホテルや旅館といった宿泊箇所と、体験コンテンツの実施事業者を結びつけるアイデア

旅行商品造成アイデア(例)について ※日帰り&周遊型商品

歴史
文化

黄金の国ジパング
いわての旅

コースの
キーワード

内陸と沿岸をつなぐ

黄金文化



ルートコンセプト

岩手が誇る世界文化遺産中尊寺金色堂。その金は気仙地方で採取されたと考えられています。金が生産される謎解きや産金文化に触れながら、実際に砂金を見つけに行く旅。

旅行商品造成アイデア(例)について ※日帰り&周遊型商品

歴史
文化

いわて塩の道
～ソルトロード～

コースの
キーワード

内陸と沿岸をつなぐ

野田塩文化

野田村
のだ塩作り体験



滝沢市
チャグチャグ馬コ体験



雫石町
わらぞうり作り体験



ソルトロード

葛巻町
オリジナル蒸留酒体験



盛岡市
いわて短角牛



ルートコンセプト

かつて野田から盛岡までの長く険しい道のりを牛の背に塩をつけて運ぶことが多かった『塩の道』を再現。『野田ベコ』とともに歩いた道のりを想像しながら、海の幸、山の幸が豊富な美食といわての深い文化を楽しむ旅。

旅行商品造成アイデア(例)について ※日帰り&周遊型商品

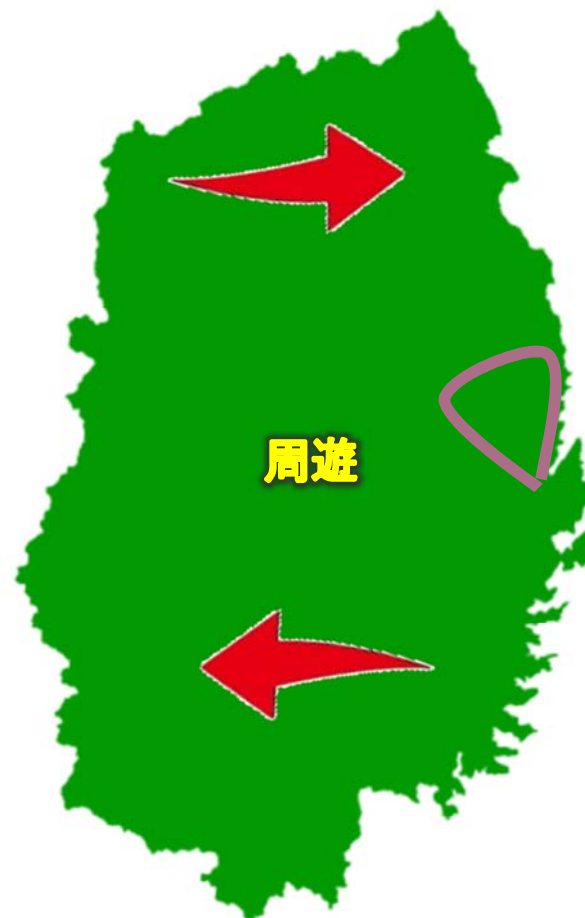
自然

300kmにおよぶ日本一の
ジオパーク

コースの
キーワード

沿岸IN(クルーズ、フェリー)

日本一のジオパーク



ルートコンセプト

宮古室蘭フェリーや富裕層のクルーズ旅行など海からの訪問者向け
五億年前からの時を刻み、今を生きる三陸ジオパーク。
300kmにも及ぶ日本一のジオパークを巡ります。

旅行商品造成アイデア(例)について ※日帰り&周遊型商品

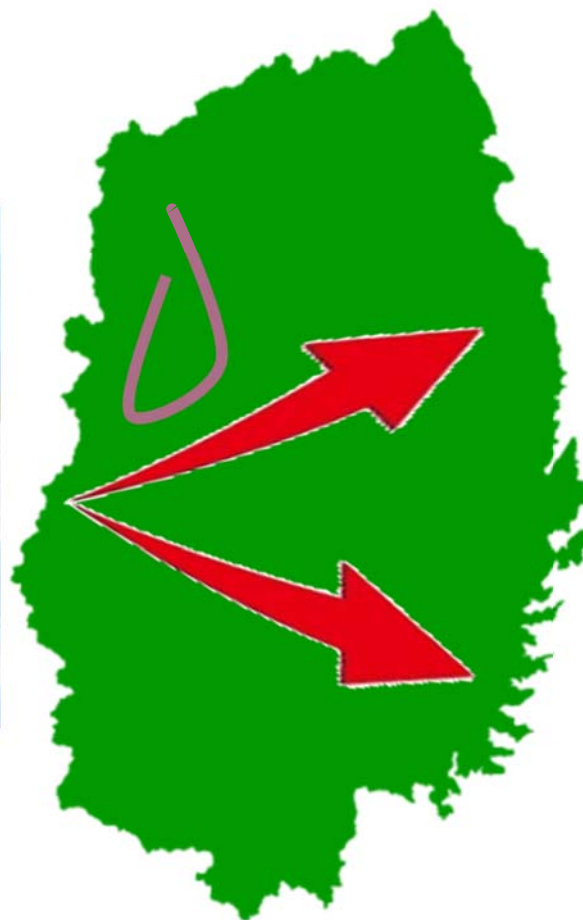
自然

自然の驚異
ドラゴンアイと秘湯めぐり

コースの
キーワード

自然の驚異

日本の秘湯



ルートコンセプト

5月下旬～6月上旬の雪溶け時期に現れる神秘的な光景ドラゴンアイ。
日本秘湯を守る会に選出されている藤七温泉や
珍しい緑色の湯色をした国見温泉などと共に自然の恵みを体感します

旅行商品造成アイデア(例)について ※宿泊付 & フリープラン

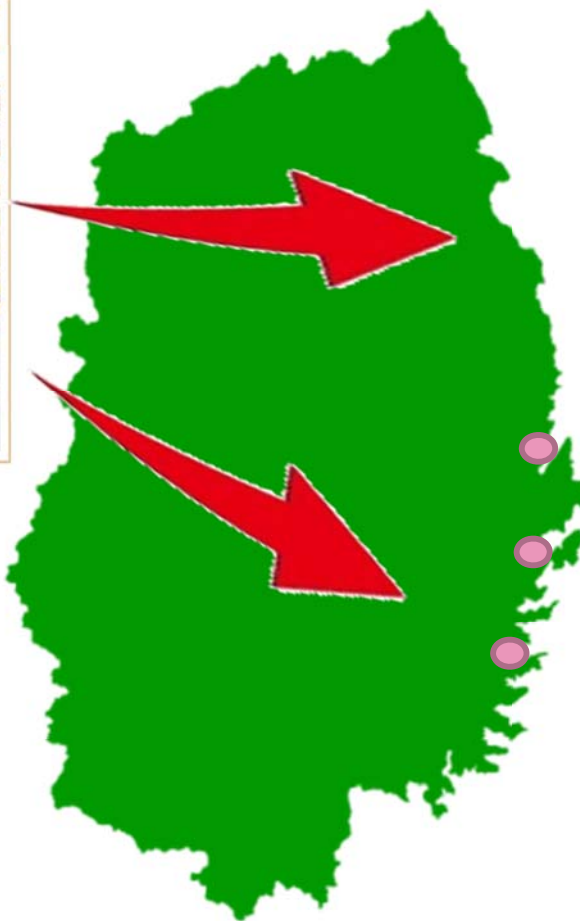
四季

夏満喫！
沿岸アクティビティー

コースの
キーワード

2019ラグビーW杯釜石開催

夏 -今だけ-



コンセプト

体験素材そのものが目的地となる魅力あるコンテンツ。
宿泊地と連携することで、滞在時間の創出が出来る。

旅行商品造成アイデア(例)について ※日帰り&周遊型商品

四季

秋の紅葉
106急行線 紅葉狩り体験

コースの
キーワード

飛行機・新幹線IN/
フェリークルーズOUT

内陸と沿岸の中間点を活用



道の駅 遠野風の丘



ルートコンセプト

内陸と沿岸をつなぐ約2時間の中間点をブラッシュアップ。
道の駅やまびこ館や道の駅遠野風の丘を活用。

旅行商品造成アイデア(例)について ※周遊型 & フリープラン

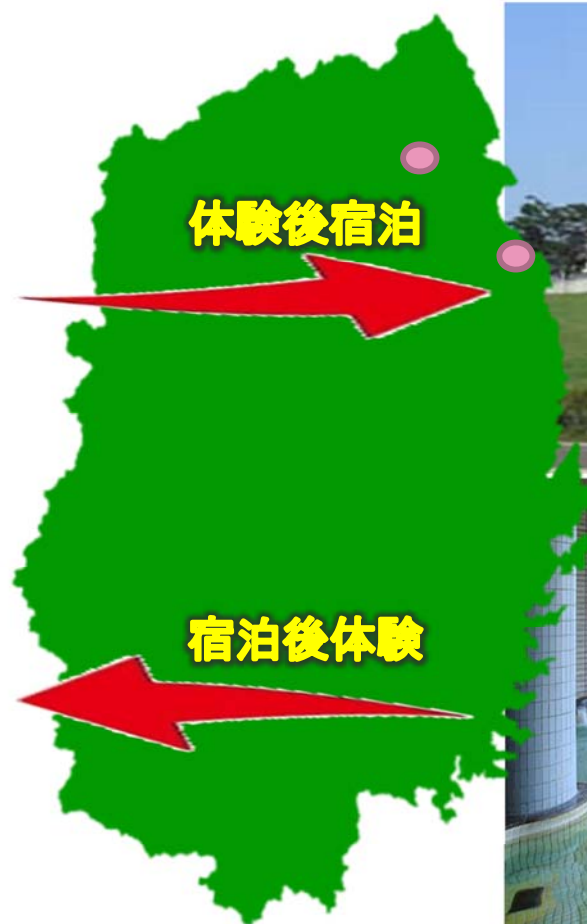
食

- ・満点の星空でワインナイト
- ・早朝網起こしで、朝ごはん

コースの
キーワード

ナイト & モーニングコンテンツ

体験 × 宿泊地



コンセプト

宿泊しなければ体験出来ないコンテンツ。
朝だけ、夜だけといった時間軸の希少性を訴求。

旅行商品造成アイデア(例)について ※周遊型 & 素材型商品

食

沿岸唯一の屋形船で食す
蒸し牡蠣体験と和を巡る旅

コースの
キーワード

和食・和菓子・和の演出

オールシーズン訴求



コンセプト

外国人が好む「屋形船内の和食」と「鉄砲」「和菓子」をセットにした商品。
屋形船×春夏秋冬(桜、花火、紅葉)等、オールシーズンでの魅力創出が可能。

旅行商品造成アイデア(例)について ※トレインパッケージ

絆

三陸鉄道で巡る
沿岸体験コンテンツ

コースの
キーワード

三陸鉄道×体験コンテンツ

沿岸を縦でつなぐ



コンセプト

沿岸を縦でつなぐ三陸鉄道。沿線沿いの魅力コンテンツとつなぐことで、
列車の利用促進×地域の滞在時間創出